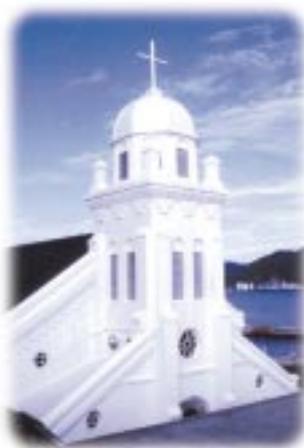
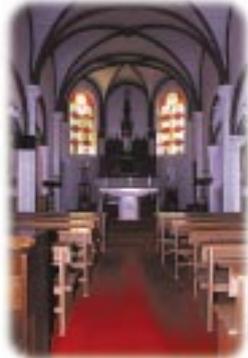




風のアльバム.....⑦ 神ノ島教会(長崎市)



長崎港の入り口、神ノ島海岸沿いの丘の中腹に静かに佇む白亜の教会。昭和42年に埋め立てられるまでは小さな島だったこの地に、遠くは佐賀からも移り住んだ信徒の祖先たちは、海風にさらされる厳しい環境の中、密かに信仰を守ってきた。

祈りの場は、民家から木造教会、そして現在の姿へと移り変わったが、篤い信仰心は今も変わらない。

はるか彼方からも見落とすことはない白い外観は、行き交う船舶の良き目じるしである。輝く海、青い空、丘の濃い緑は、その白さを一層際立たせる。

内部は、低いアーチ型の天井とそれを支える白い柱が、ステンドグラスを通して差し込む陽の光を、鮮やかに映しだしている。

五島灘へ向かう船の汽笛の音が、静寂の時間を打ち破る。教会は、港を出入りする船の安全を祈るように、優しく見守っている。

かみのしまきょうかい
長崎市神ノ島町 明治30年(1897年)完成
フランス人デュラン神父の設計
長崎駅からバスで40分 神ノ島教会下